

第5章 リーディングプロジェクト

1 リーディングプロジェクトの概要

(1) リーディングプロジェクトとは

計画において目指す環境像の実現のためには、基本目標ごとの取り組みを推進することが重要です。

また、併せて、各分野を横断する総合的な施策を掲げ、取り組みの機運を高めていくことも重要となります。

こうした総合的かつ先導的に取り組むべき施策をリーディングプロジェクトとして明確化し、計画全体を先導していくシンボリックな役割を担うものとして位置付けます。

(2) リーディングプロジェクトの設定の考え方

本市は、三方を海に囲まれ、首都圏にありながら自然環境に恵まれた点が最大の魅力となっていますが、近年では、気候変動への適応や、海洋プラスチックごみ対策などの新たな環境課題に取り組む必要が生じています。

また、国の「第五次環境基本計画」や「SDGs」において示されるように、環境・経済・社会の問題は相互に関連し、複雑化していることから、これらの課題を統合的に解決することが求められています。

このような状況を踏まえ、環境像の実現に向け、統合的に課題を解決するために、以下の視点から環境分野を横断・連携したリーディングプロジェクトを設定します。

グリーンインフラ 導入・活用プロジェクト	脱炭素さがけ プロジェクト	プラスチックスマート 推進プロジェクト
基本目標1 人と自然が共生し、 ゆたかな環境に親しめる まちをめざします	基本目標1 人と自然が共生し、 ゆたかな環境に親しめる まちをめざします	基本目標3 身近なところから生活を 見直し、循環型社会を 構築するまちをめざします
基本目標2 気候変動に適応し、 脱炭素社会へ移行する まちをめざします	基本目標2 気候変動に適応し、 脱炭素社会へ移行する まちをめざします	基本目標4 安心して快適な 生活環境を実現し、 住みよいまちをめざします
基本目標5 環境にやさしい社会の担い 手を育むまちをめざします	基本目標5 環境にやさしい社会の担い 手を育むまちをめざします	基本目標5 環境にやさしい社会の担い 手を育むまちをめざします

2

リーディングプロジェクトの内容

グリーンインフラ導入・活用プロジェクト

【プロジェクトの全体像】

本市は、谷戸地域をはじめとした傾斜地を有する丘陵都市です。これらの谷戸や傾斜地付近は、居住地域にもなっていることから、地球温暖化が要因とされる猛暑や局地的大雨などによる土砂崩れなどの災害による被害の発生が懸念されています。

本プロジェクトでは、自然環境の保全・創出および気候変動への適応にかかる取り組みを進めるために「グリーンインフラ」の視点を取り入れるなど、自然災害による被害の回避・軽減を図るための取り組みを進め、自然資源の多面的な機能を活用した複合的な取り組みを検討し、展開することを目指します。

【取り組みの方向性・期待される効果】

樹林地の適切な保全・維持管理を進めるとともに、河川については、多自然川づくりおよび「流域治水」の視点を取り入れた管理を検討し、健全な状態を維持します。

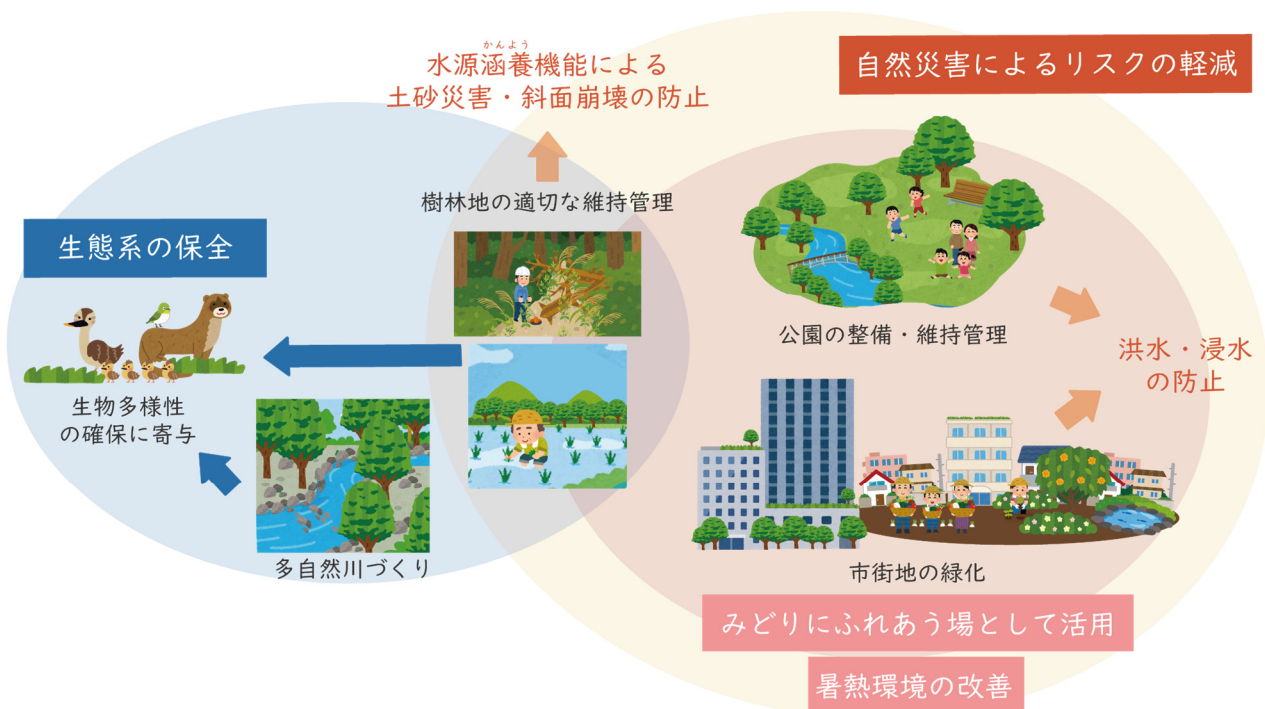
また、これらの自然環境の保全と適正な維持管理により、生物多様性の確保に努めるとともに、雨水の浸透・貯留機能を向上し、土砂災害や洪水被害の軽減を図ります。

さらに、市街地の緑化を推進し、災害時の避難拠点となる身近な公園の維持管理を進め、みどりゆたかな市街地の形成に努めます。

これらの取り組みを通じて、ヒートアイランド対策の推進や自然とのふれあいの場を創出するとともに、雨水の浸透・貯留機能の向上を図ることで、地球温暖化に伴う暑熱環境の改善や局地的大雨による被害の軽減を目指します。

【取り組み例】

- 樹林地の適切な保全・維持管理の推進
- 「グリーンインフラ」の視点を取り入れたまちづくり
- 雨水の浸透・貯留機能などの向上
- 公園の有するポテンシャルを活かす維持管理



脱炭素さきがけプロジェクト

【プロジェクトの全体像】

脱炭素社会への移行に向け、省エネルギーの更なる推進、再生可能エネルギーの導入と活用促進による温室効果ガス排出量の削減と併せ、温室効果ガス吸収源に関する取り組みを推進します。

本プロジェクトでは、海に囲まれた本市の環境特性を活かし、海藻や海底などの海域で固定される炭素（ブルーカーボン）に焦点を当てた取り組みを先導的に推進し、地球温暖化対策をはじめとした海洋生態系や水質の保全に寄与する取り組みを進め、海洋資源を活かした地域活性を目指します。

【取り組みの方向性・期待される効果】

植物や微生物には二酸化炭素などの温室効果ガスを取り込み、光合成により固定・貯留する働きがあり、温室効果ガス吸収源としての活用が期待されています。

漁業者と連携・協力し「海のゆりかご」としての機能を持つ藻場や浅海域の保全・再生の取り組みを進め、水質の改善や食糧生産の場としてブルーカーボン生態系を活用するとともに、地球温暖化対策に寄与する温室効果ガス吸収源として活用を進めます。

併せて、ブルーカーボンによる温室効果ガス吸収量をクレジットとして売却（取引）するなど、新たな温暖化対策事業の検討・展開を図ります。

また、保全・再生した浅海域や藻場を、ブルーカーボンや海洋環境の保全について学ぶことのできる環境教育・環境学習の場として活用するなど、複合的な効果をもたらす取り組みを推進します。

【取り組み例】

- 海藻、藻場の多面的利用推進
- ブルーカーボンの普及啓発
- 漁業関係者との連携による藻場や浅海域の保全・再生
- オフセットなど新たな事業展開の検討



プラスチックスマート推進プロジェクト

【プロジェクトの全体像】

本プロジェクトでは、海洋プラスチックごみ対策に寄与し、循環型社会の構築を進めるための取り組みとして、プラスチックごみに焦点を当てた「プラスチックスマート」の取り組みを推進します。

プラスチックごみを海域へ流出させないために、陸域でのポイ捨て防止やプラスチックごみの減量、適正処理を推進するとともに、流出したごみの回収や処理を行い、海から多くの恵みを受してきた本市として、先導的にプラスチックごみの対策に取り組めます。

【取り組みの方向性・期待される効果】

世界的に問題となっている海洋プラスチックごみによる環境汚染の問題解決のためには、原因であるプラスチックごみそのものへ働きかける必要があります。

プラスチックの海域への流出を防ぐこと、また、すでに流出したものについては回収し、適正に処理することが重要となるため、陸域や海域でのポイ捨て防止やプラスチックごみの減量、適正処理を推進することが求められます。

プラスチックごみの減量と適正処理を推進するため、レジ袋や使い捨てプラスチックの使用低減を呼び掛け、代替プラスチックの利用を促進するとともに、ごみの分別を徹底するなど、環境負荷の少ない消費行動につながる取り組みの促進・支援を行います。

また、ごみの不法投棄防止に向けた意識啓発を行うとともに、海域におけるビーチクリーンなどを協働で実施することにより、各主体が一体となった美化活動を展開します。

海洋プラスチックごみ問題を契機に、環境教育・環境学習を展開することにより、本市の財産である海の環境保全に関する意識を醸成し、循環型社会の構築を目指します。

【取り組み例】

- ごみの分別と適正処理の徹底
- 不法投棄、ポイ捨ての防止

- プラスチック代替品の利用促進
- あらゆる主体との協働による美化活動の展開

